■今月の特選句

2019 年 9 月

蜘蛛守宮怪しき家の警備員

山下正純

蜘蛛は益虫なんだよね。守宮も玄関先の虫を退治してくれる。だから、確かに警備員なんだが、夜間の仕事で、たしかに怪しげな存在である。

ひらひらチョンきくきくチョチョン盆踊

椋本望生

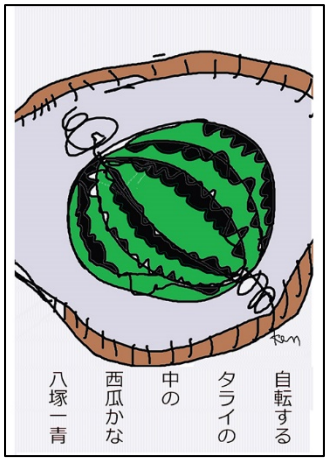
なるほど、声に出してみるとそのまま踊れるような気がする。こういう自在な表現こそ滑稽句。「すらすら五ちょんちょん七にさらりと五」。

絵日記にたたみこまれる蝉の声

森岡香代子

音声を記録するのに「たたみこまれる」の表現が面白い。「絵日記にしみこませたる蝉の声」では、ちょっと芭蕉のパクリになるからね。

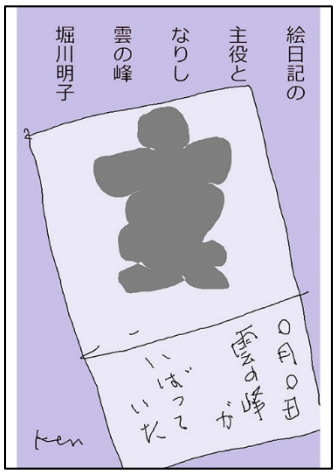
滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。



自転するタライの中の西瓜かな

八塚一青

ちょんとつつけばグルグル回転する西瓜。そういえば西瓜は地球に似ている。タライは小宇宙だね。「地球も自転タライの西瓜見習って」。



絵日記の主役となりし雲の峰

堀川明子

雲の峰は存在感がある。圧倒的な大きさが印象に残ったのだろう。ただ、絵にするのはなかなか難しい。うまく描けたらいいね。

腰かける石の中より蝉の声

久我正明

芭蕉の「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」が、三百年余り後にこんな展開を見せるとは翁も吃驚だろう。発想の豊かさが楽しい句となった。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

ストローをスルスルのぼりアイスティー　上山美穂
・・・スで韻を踏みお洒落な一句に

夏料理ほめる言葉は一様で　山本　賜
・・・ご一同様以下同文で

端っから泳ぐ気の無い水着かな　小川飩太
・・・切れ端などを有効活用

夕焼けて文化遺産の千枚田　本門明男
・・・お天道様が照明係

一斉に万の顎上ぐ揚花火　田村米生
・・・喉仏にも花火見せるや

目を凝らし夢を見てをり夏期講座　柳　紅生
・・・参加に意義があるというけど

振舞水なくて自販機探しけり　荒井　類
・・・四国においでお接待あるよ

蚊帳の中酸素が不足してをりぬ　伊藤浩睦
・・・蚊帳が目詰まりしたかもしれぬ

チョン切られ百足二手に逃げ惑う　相原共良
・・・形状記憶とならぬ哀れよ

骨密度しかと知らねど鰯噛む　稲沢進一
・・・転ばぬ先の鰯とならむ

今日生きて明日は分からぬ夏の果　井口夏子
・・・秋になつたら百歳めざす

こんなにもかいてわたしの汗元気　大林和代
・・・汗が出るのは生きてる証拠

盆の家御霊と膳を囲むかな　吉川正紀子
・・・お相伴とて吟醸酒など

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句･秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

どの色になるかは内緒蝶の羽化	相原共良
蛇くはへ鴉の高い高いかな	相原共良
熱帯夜思考の回路誤作動の	青木輝子
よそ物の鰻夫に毒味させ	青木輝子
厚化粧のメッキ剥げるや大猛暑	青木輝子
甘酒に酔ひさうになる朝湯かな	赤瀬川至安
幹の蟻シロのいばりを浴びにけり	赤瀬川至安
浴衣に靴恐れ入つたる雷門	赤瀬川至安
鴫焼の茄子食ひ西行偲びけり	荒井　類
鍋奉行に従はぬなり鍋乙女	荒井　類
歳とらば回想ばかりカンナ燃ゆ	井口夏子
弾かせて楽しむ心鳳仙花	井口夏子
神さまを拝むがごとく蚊を叩き	池田亮二
大兵も蜻蛉返りする夏相撲	池田亮二
油照りゴム手の中はサウナ風呂	石塚柚彩
みな一斉地震警報夏の宵	石塚柚彩
蚊の羽音して闇叩くあてずっぽうに	石塚柚彩
はかなさや蜻蛉たちと蛍草	泉　宗鶴
葦である人間さんに足がある	泉　宗鶴
ひやそうめん長いがいいか年の功	泉　宗鶴
運び手も鯖もお互い足速し	伊藤浩睦
猛暑日もいちばんあれで済ます人	伊藤浩睦
いくたびもの遺憾はいかん含羞草	稲沢進一
隣より声のするのは秋の声	稲沢進一
大西瓜持て余しをり核家族	稲葉純子
風だけを掬つてしまひ捕虫網	稲葉純子
白旗を掲げ十薬十字軍	稲葉純子
ネックレスピアスを外す暑さかな	井野ひろみ
毎日が夏の真ん中日本中	井野ひろみ
お世辞にも秋とは言へぬ今朝の秋	井野ひろみ
人差し指とおしゃべり水槽のメダカ	上山美穂
夢見心地や冷房に羽布団	上山美穂
目をとぢてをり緑陰の水琴窟	梅岡菊子
花火にも似し人生のはかなさよ	梅岡菊子
空蝉なにか言ひたげ目を光らせて	梅岡菊子
シャンソンのチケット秋を待つてゐる	梅野光子
目覚まし時計や梅雨明の蝉時雨	梅野光子
露を光らせ露草の濃紫	梅野光子
かなぶんのぶんと破りて障子穴	太田史彩
茗荷好き茗荷谷越え池袋	太田史彩
ふあほあと温泉饅頭夏の朝	太田史彩

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事･写真･イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写･転載等を禁じます。

風ぬるし休息宣言扇風機	大林和代
炎帝を蹴りつつ来たる乳房かな	大林和代
鮎投げ込まれ大歓声の屋形船	小笠原満喜恵
城山の電飾ゴジラと夕涼み	小笠原満喜恵
やれ嬉しダム満杯に梅雨明ける	小笠原満喜恵
水菓子の甘味ゆるうり残暑かな	岡田廣江
太鼓の音に骨身のおどり秋暑し	岡田廣江
穂芒が一足先に残暑かな	岡田廣江
暑いと言って罰金払う言い出しっぺ	小川飩太
妻の血の薄さ知ってか蚊は吾に	小川飩太
向日葵や一同拝礼白い雲	奥脇弘久
サングラスかけて分け入る暖簾かな	奥脇弘久
今夜また馴染みとなりし熱帯夜	奥脇弘久
夕凪やスターバックスで経を読む	金城正則
観音経唱えつ散歩の夏の夕	金城正則
炎熱や不動明王よ金剛力をくれ	金城正則
まわり道しても混雑蝉の声	久我正明
向日葵や歯列矯正歯科医院	久我正明
あぢさゐの受け入れてゐる錆の色	工藤泰子
燃えつきて炎をたたむカンナかな	工藤泰子
目から火が蜂に刺されてああムンク	工藤泰子
俳句ばかり作つていたいななあ金魚	桑田愛子
ガラス玉を宝石に変へ夜店の灯	桑田愛子
百日紅(ひゃくじつこう)散れば大地が血に染まり	桑田愛子
水浴びてきゆつきゆと笑ふ秋なすび	小林英昭
もの思ふ人にと秋の長雨かな	小林英昭
菊人形やたら美男と美女ばかり	小林英昭
花の実のいろいろを掃き夏の庭	近藤須美子
しんどいね歩行湯に入り汗をかき	近藤須美子
風鈴の音の涼しさも窓辺かな	近藤須美子
梅雨長し熊蝉遠慮勝ちに鳴く	佐野萬里子
丑年に生まれ土用は鰻丼	佐野萬里子
土用餅やはり気になる血糖値	佐野萬里子
人情も義理も溶けゆくこの暑さ	下嶋四万歩
まだまだはすぐといふ意味秋の聲	下嶋四万歩
夏草やつはもの共が呻き声	下嶋四万歩
心太突き出す如に本音出る	壽命秀次
石段の紫陽花に愚痴膝が泣く	壽命秀次
昼夜燃ゆ新婚住まふ百日紅	壽命秀次
右ひだり前ようしろと西瓜割り	白井道義
かたくなに押しの一手や心太	白井道義
子つばめのでっかい口が待ち受ける	白井道義
緊張の少年コアラ抱く夏	水夢
半眼のクロコダイルの昼寝かな	水夢

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

朝涼やポニーテールの位置決まる	鈴鹿洋子
鰻焼く野球中継聞きながら	鈴鹿洋子
いろんな褒め言葉もらって額紫陽花	鈴木和枝
紫陽花におじぎするよに腰痛体操	鈴木和枝
丸くても四角でもいい田植機に一任	鈴木和枝
火蛾ごとく八百屋お七の芝居かな	髙田敏男
天窓や先祖も見たか閏の月	髙田敏男
酒さげて下戸も先祖に墓参かな	髙田敏男
母不在誰もいないと帰省の子	高橋きのこ
一匹の蛍に民族大移動	高橋きのこ
夏休み休みにならない子連れ旅	高橋きのこ
願わくばおんぶばつたの老後かな	竹下和宏
つくづく法師その日暮らしよ民々は	竹下和宏
かなかなやなかなか減らぬ吾が名刺	竹下和宏
生かされてゐること確認半夏生	田中　勇
夏蝶や宇宙の楽譜運びくる	田中　勇
赤裸々の告白したる蓮の花	田中　勇
黒き顔益々黒し梅雨の明け	田中早苗
親の脛かじり易くて小判草	田中早苗
蝉の声さあ梅干すぞと腕捲り	田中早苗
近し人倒れ眠るままの酷暑かな	田中晴美
ホ−ムラン酷暑の空に突き刺さる	田中晴美
母の愛求め我が手にバッタの子	田中晴美
甚平の腰に印籠隠居振り	田村米生
鬼虎魚（おにおこぜ）笑はせたいとにらめつこ	田村米生
蜘蛛元気私うんざり庭仕事	月城花風
日の暮れていざ買い物へ夏日なり	月城花風
サングラスお洒落じや無いのよ白内障	月城花風
蛍族植木等か千鳥足	土屋泰山
雲外に蒼天ありとつゆ知らず	土屋泰山
河童忌やラッパ吹いてる豆腐屋さん	土屋泰山
もくもくの入道雲の美味しそう	坪田節子
混雑をきはめ夏休みの駐車場	坪田節子
吾にできることは黙禱原爆忌	坪田節子
こゑ一つ出ぬ七日目の暑さかな	飛田正勝
戦まだ止まぬ今年の暑さかな	飛田正勝
掬へずに泣く子に掬ふ屑金魚	飛田正勝
冷蔵庫開けて我が家の貧を知る	西をさむ
灸花すえてもびりの駆けくらべ	西をさむ
恐るべき妻ごきぶりと勝負する	西をさむ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

九条を祀り令和の終戦日	花岡直樹
立秋とは名ばかり皆に無視される	花岡直樹
この猛暑冷やすは唯一ビールだけ	花岡直樹
つるの先取られ朝顔立ち往生	林　桂子
風鈴の動かぬ舌を鳴らし猫	林　桂子
樹肌にすがる空蝉の一途かな	林　桂子
避難所に蜘蛛もきてゐる颱風圏	原田　曄
鈍臭きわれと似たるか梅雨ぐずる	原田　曄
ごきぶりやひと悶着のありさうな	原田　曄
噴水や紐の長さに犬跳ねる	久松久子
真つ二つにされて西瓜の大笑ひ	久松久子
ちよぼちよぼと言われ高価な京扇子	久松久子
太陽が容赦せんぞと梅雨の明け	日根野聖子
Tシャツは衿から疲れ夏の果	日根野聖子
黙禱の指の垂直原爆忌	日根野聖子
厨房に転がる玉ねぎ出番待つ	廣田弘子
一房のバナナのカーブどれも美し	廣田弘子
月影を浴び宵待草の真黄色	廣田弘子
中国産名告る鰻重物言わず	細川岩男
熱帯夜喘ぎ泳いで微睡(まどろ)んで	細川岩男
扇風機空しく熱気を掻き廻す	細川岩男
かき氷ダイエット法熱弁の	堀川明子
結果出てをり朝顔の花占い	堀川明子
はつ夏の田水見回り喜寿となる	本門明男
星祭り願ひの多く笹撓む	本門明男
筋トレを怠け足腰夏痩せす	南とんぼ
娘よりクーラー入れてのメールかな	南とんぼ
製氷室より過重労働の悲鳴かな	南とんぼ
大の字はやがてCの字昼寝人	峰崎成規
生きるとは一方通行蝉の穴	峰崎成規
星流る宇宙の無限ちと倦みて	峰崎成規
好きな子へ鉄砲百合の狙い撃ち	三好　城
海賊のルビーが被る麦藁帽	三好　城
サングラスロで叱つて眼で笑ふ	椋本望生
噴水のやうに折れたる痴話喧嘩	椋本望生
身軽とて失笑されし羽抜鶏	村松道夫
捨苗や箱ごとでんと据ゑ置かれ	村松道夫
山梔子(くちなし)や堅く閉ざした妻の口	村松道夫
夏痩やをみなよく食べよく眠り	村山好昭
助手席にぐつすり寝込むサングラス	村山好昭
数学は苦手と言ひし木下闇	村山好昭

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

海の日のやくざに張りし父のえら	百千草
キャンプめく防災袋日雷	百千草
温度設定地球に合はせ熱帯夜	百千草
めざめてもそこにいたはず盆の月	森岡香代子
おしゃべりな入れ歯のばあば轡虫	森岡香代子
風鈴は風の種類を選べない	八木　健
日向水つくる再生可能エネルギー	八木　健
捌くたび包丁洗ふ船料理	八木　健
洋酒には冷酒が無いと下戸の言ひ	八洲忙閑
暑気払ひアブサン飲んで危なかる	八洲忙閑
吾輩は晩花なりけり夜の秋	八洲忙閑
蓑虫は着の身着のまま生きている	八塚一青
枝豆の良さが分からぬ青二才	八塚一青
水鉄砲白シャツを脱ぎ降参す	柳　紅生
サンダルの踵軸にし星流れ	柳　紅生
有難や巨大みかんのラブレター	柳澤京子
癒さるる祭の園児の合唱に	柳澤京子
認知症予防の散歩や夏深し	柳澤京子
やっとこさ生きているのにこの暑さ	柳村光寛
濡場来て固唾を呑むや村芝居	柳村光寛
三年間いや五年待ち栗稔る	柳村光寛
こそばゆし降りつ止みつの小雨梅雨	山下正純
夏草の断りもなく柵越ゆる	山下正純
網目よきメロン一個に大家族	山本　賜
干されゐる魚籠はびしょびしょ夏の雨	山本　賜
捕虫網爺の威厳のがた落ちに	横山喜三郎
古里の蝉はうるさくなかりけり	横山喜三郎
すさみたる現世をとどめ魂送り	横山喜三郎
踊り子の世代交代盆踊り	横山洋子
雨続き不恰好な瓜の牛	横山洋子
灼熱にピンク際だてさるすべり	横山洋子
枇杷の実を先陣争ひ蟻と俺	吉川正紀子
梅雨の夜ジャズに雑念打ち消され	吉川正紀子
廃炉かなここを先途と鐘叩	吉原瑞雲
賞を得て杜氏酔ひしむ今年酒	吉原瑞雲
芸人が屈み干さるゝ梅雨軒端	吉原瑞雲
ソーダ水一次試験に落ちました	渡部美香
鉛筆の手記かすれかすれて終戦日	渡部美香
大ぶりの西瓜切り分け法事かな	渡部美香
団子虫と蟻に子守を頼みけり	和田のり子
給食が恋しと痩せる夏休	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。